

令和6年度 授業改善推進プラン

教科：国語

学年	<p><根拠となる学力調査・授業アンケート等> ■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策 ・具体的な取組</p>
7 学 年	<p><学びに向かう力等に関する意識調査より> ■「学習の方法を工夫している」の項目が低かった。</p> <p><授業の様子より> ■「書く」課題に取り組む際に、時間を意識できておらず、時間内に課題が終わらないことがある。</p> <p><学力調査や定期考査の結果より> ■漢字の書き取りや文法の知識などの正答率が低かった。</p>	<p>○系統的な授業を行う。 ・一つ一つの授業が課題のどこにつながっているのかを確認しながら授業を進める。その際にどのような方法があるかを提示していく。</p> <p>○時間を意識させる授業を行う。 ・「書く」課題を行う前に時間を伝え、タイマーを掲示して、それを見ながら考えるよう指導する。 ・手書きで書く課題を多く実施し、200文字を10分以内で書けるようにする。</p> <p>○年間を通して漢字テスト等を実施する。 ・毎週漢字テストを行い、長期休業明けには漢字50問テストを行い、漢字の書き取りの力を高める。 ○復習を取り入れた授業による定着を図る。 ・文法の授業では、授業の開始に前時までの復習を行い、理解したうえで授業を進めていく。</p>
8 学 年	<p><学びに向かう力等に関する意識調査より> ■「分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしている。」項目が低かった。</p> <p><授業の様子より> ■他の生徒の意見を知る機会が少ない。</p> <p><学力調査や定期考査の結果より> ■文法の知識の正答率が低かった。</p>	<p>○語彙を増やす環境を作る。 ・授業中は辞書を常に机の上に置き、分からない言葉をすぐに調べられるようにする。また、言葉の手帳を使用し、日常で分からない言葉を書き留め調べる習慣を身に付けさせる。</p> <p>○授業中に生徒が互いの意見を聞く時間を設ける。 ・文章の回し読みや意見を発表する機会を多く取り入れ、自分とは異なる考え方に触れさせ、多角的な視野をもてるようにする。また、生徒と生徒、教員と生徒の対話形式の授業を多く取り入れる。</p> <p>○復習を取り入れた授業による定着を図る。 ・文法の授業では、授業の開始に前時までの復習を行い、理解したうえで授業を進めていく。 ・文法の復習問題を作成し、長期休業中に復習を行う。</p>
9 学 年	<p><学びに向かう力等に関する意識調査より> ■「どうやらうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている。」項目が低かった。</p> <p><授業の様子より> ■既習事項を使って課題に取り組むことができないときがある。</p> <p><学力調査や定期考査の結果より> ■着目する内容を決めて要約するの正答率が低かった。</p>	<p>○学習の見通しをもたせる授業を行う。 ・単元の始めに「学習シート」を用いて、毎時間の目標を説明する。課題が始まる前に単元でどのようなことを学んできたかを伝え、見通しをもたせて課題に取り組ませる。</p> <p>○系統的な授業と既習事項の確認を行う。 ・一つ一つの授業が課題のどこにつながっているのかを確認しながら授業を進める。また、それぞれの分野の既習事項を確認しながら授業を進める。</p> <p>○文章を書く際に文字数の制限を行う。 ・文章の目的に合わせて、必要な情報を取捨選択させるために、文字数の制限のある中で、要約や情報を吟味する課題を行う。</p>

教科：数学

<p>学年</p>	<p><根拠となる学力調査・授業アンケート等> ■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策 ・具体的な取組</p>
<p>7学年</p>	<p><授業の様子・意識調査の結果より> ■苦手意識がなく、課題解決に積極的に取り組んでいる。しかし、授業がない日を挟むと前時の内容を忘れてしまう。</p> <p><式根島学園テストより> ■全国の平均と比べて12.1ポイント低く、特に図形の面積や体積を求める問題が苦手である。</p>	<p>○学習の見通しをもたせる授業を行う。 ・単元の始めに「学習シート」を用いて、毎時間の目標を説明する。また、各授業の最初に目標を確認する。</p> <p>○復習の時間を設ける ・単元の終わりに復習の時間を設け、定着が不十分な内容を選び、学習に取り組む。また、定期的な小テストを行うことで、学んだ内容を思い出す機会を増やす。</p> <p>○公式の定着 ・おうぎ形の面積を公式として覚えるのではなく、実物などを用いて測定するなど、実際の物体を使った実験をしながら定着を図る。</p>
<p>8学年</p>	<p><授業の様子・意識調査の結果より> ■意欲的に課題に取り組んでいる。意識調査から、授業内容の理解はできても教科が得意とは感じていない。</p> <p><式根島学園テストの結果より> ■全国の平均と比べて7ポイント低い。内訳を見ると、昨年の後半の内容ができているが、1学期に行った内容の正答率が低い。</p>	<p>○基礎の定着から自己肯定感の向上 ・授業内容の演習を多く行い、成功体験を増やすことで自己肯定感の向上を図る。</p> <p>○7学年の内容の復習を行う ・各単元の導入において、既習事項の復習を全体で確認後、小テストを実施することで自身の定着率を確認する。定着が低い場合には、課題を作成し実施する。</p>
<p>9学年</p>	<p><授業の様子・意識調査の結果より> ■意欲的に取り組んでいる。得意に感じている生徒が多いが、習熟度に大きな差がある。</p> <p><式根島学園テスト・全国学力調査の結果より> ■学園テストは全国の平均より5.4ポイント低かったが、全国学力調査では全校の平均より27%高かった。基礎が定着し、複合問題への取り組みが必要である。</p>	<p>○習熟度別の課題設定 ・基礎が十分に定着できている生徒が挑戦することができる課題を準備し、自分の定着度に合わせた課題を選択できるような環境を作る。</p> <p>○複合問題に取り組む ・特に関数の分野での誤答が多かったため、都立入試の大問3を複数取り扱い、複合問題を解決するための技能を高める。</p>

<p>学年</p>	<p><根拠となる学力調査・授業アンケート等> ■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策 ・ 具体的な取組</p>
<p>7 学年</p>	<p><学びに向かう力等に関する意識調査より> ■授業の内容を理解していると全員が答えているが、どちらかといえば得意ではないと感じている生徒が6割いる。 <授業の様子より> ■どの生徒も主体的に取り組み、積極的に発言しているが、演習で粘り強さが発揮できない生徒もいる。 <学力調査・定期考査の結果より> ■学力調査では、どの項目も目標値を上回っているが、知識・理解が全国平均値よりも低い。(知識・理解 校内値 75.3 目標値 75.0 全国平均値 85.3) 定期考査では、全体的に単語のスペルミスや構文の理解不足があった。</p>	<p>○生徒が英語を得意教科だと感じる授業づくりをする。 ・何を学んだかを Lesson ごとに振り返ることができるよう、ワークシートを工夫する。 ・一度教えた文法事項をスパイラルで使う機会を与え、繰り返し触れながら定着させる。 ・基礎基本の練習を多く取り入れ、できたと感じる回数を増やす。 ○英語で表現することをより授業に取り入れ、生徒が理解できるようにする。また、単語や文章を書く練習を多くする。 ・音読練習にも力を入れ、英語の表現に慣れさせる。 ・単語や文章をノートに書くだけでなく、小テストで定着を図る。</p>
<p>8 学年</p>	<p><学びに向かう力等に関する意識調査より> ■授業の内容を理解している生徒とそうでない生徒が半々である。しかし、理解している生徒が、どちらかといえば得意ではないと感じている。 <授業の様子より> ■どの生徒も主体的に取り組み、積極的に発言しているが、自信をもって音読できない生徒もいる。 <学力調査・定期考査の結果より> ■学力調査では、どの項目も目標値を下回っているが、思考・判断・表現が特に下回っている。(思考・判断・表現 校内値 39.3 目標値 50.4 全国平均値 56.4) 特に、英文の読み取りや場面に応じて書く英作文が低かった。定期考査では、全体的に単語のスペルミスや文法表現の理解不足があった。</p>	<p>○生徒が興味・関心をもって積極的に取り組める授業づくりをする。 ・興味・関心をもてる英語を使ったアクティビティをより活用する。 ○生徒が分かったと感じる授業づくりをする。 ・何を学んだかを Lesson ごとに振り返ることができるよう、ワークシートを工夫する。 ・一度教えた文法事項をスパイラルで使う機会を与え、繰り返し触れながら定着させる。 ○英文読解・英作文の内容をより授業に取り入れる。 ・Lesson の中で読解が中心の USE Read を活用する。また、独自の読解用ワークシートを作り、英文読解に慣れさせる。長文読解の機会を多くし、読解力を付けさせる。 ・Lesson の中で英作文が中心の USE Write や Project を活用する。単語力を強化し、文法を英作文で活用し書く力を伸ばす。</p>
<p>9 学年</p>	<p><学びに向かう力等に関する意識調査より> ■授業の内容を理解していて得意であるとはほぼ全員が答えているが、内容がほとんど分からなく得意ではないと感じている生徒が2割いる。 <授業の様子より> ■どの生徒も主体的に取り組み、積極的に発言しているが、書くことに自身のない生徒もいる。 <学力調査・復習確認テストの結果より> ■どの力も目標値や全国平均値よりも高い。語形・語法の知識・理解の問題が他よりも少し低い。(校内値 45.0 目標値 56.3 全国平均値 56.7) 復習確認テストでもどの力も受験者平均よりは高いが、物語文の内容理解では、問題により達成率が低い問題(校内 20% 平均 37%)もある。</p>	<p>○生徒が分かったと感じる授業づくりをする。 ・何を学んだかを Lesson ごとに振り返ることができるよう、ワークシートをより工夫する。 ・一度教えた文法事項をスパイラルで使う機会を与え、繰り返し触れながら定着させる。 ○語形・語法の内容をより授業に取り入れ、生徒が語形・語法の知識を付け、理解できるようにする。 ・POINT 文や本文の英文を学ぶ際に、語形・語法についてより詳しい説明をする。また、独自のワークシートを作り、語形・語法の知識を増やす。 ○読解力強化では、様々な英文や長文を読解する内容をより授業に取り入れ、生徒が英文を読み取れるようにする。 ・Lesson の中で読解が中心の USE Read を活用する。また、独自の読解用ワークシートを作り、英文読解に慣れさせる。長文読解の機会を多くし、読解力を付けさせる。</p>

教科：社会科

<p>学年</p>	<p><根拠となる学力調査・授業アンケート等> ■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策 ・具体的な取組</p>
<p>7 学年</p>	<p><学びに向かう力等に関する意識調査> ■授業の内容について「分かる」「どちらかといえば分かる」が100%。教科の学習について「得意」「どちらかと言えば得意」が60%。学習が行き詰った場合、「どちらかと言えば工夫しない」が60%。教わったことを応用する力に課題がある。 <授業の様子より> ■積極的に授業に取り組み、力を伸ばそうと意欲的に活動している。 <学力調査の結果より> ■学園テスト・定期考査等を総じて、平均点は60点程度である。他項目に比べ、比較的に必要な知識を問う問題の正答率が低い。</p>	<p>○理解したことを記録する力や、より深い知識を自ら得るための力を育てよう工夫する。 ・短い文章資料を多く用い、段階的に文字資料に慣れさせる。 ・類似する社会的事象を努めて取り扱い、相関性について考える場面を増やす。 ・資料から読み取ったことや気付いたこと、考えたことを説明させる場を多く設ける。 ・気付いたことについて調べさせ、考察する時間を用意する。</p>
<p>8 学年</p>	<p><学びに向かう力等に関する意識調査> ■授業の内容については、「分かる」と「どちらかと言えば分からない」に二分した。また、教科の学習についても「得意」と「得意ではない」に二分した。 <授業の様子より> ■積極的に授業に取り組み、力を伸ばそうと意欲的に活動している。 <学力調査の結果より> ■学園テスト・定期考査等を総じて、平均点は60点程度である。最近学習したことの正答率が高い一方、過去に学んだものほど正答率が低い傾向がある。</p>	<p>○基本的な学習内容の定着を重点に置きつつ、過去の学習との関連性について考える力を育てよう工夫する。 ・過去の学習内容の振り返りをする場面を用意する。 ・都立一般入試問題やミニゲームなどを用いて、定期的に社会科の総合的な学習内容の確認を行う。 ・類似する社会的事象を努めて取り扱い、相関性について考える場面を増やす。 ・気付いたことについて調べさせ、考察する時間を用意する。</p>
<p>9 学年</p>	<p><学びに向かう力等に関する意識調査> ■授業の内容について「分かる」「どちらかといえば分かる」が80%。教科の学習について「得意」「どちらかと言えば得意」が60%である。また、確実にできるようになるまで繰り返すことについて「当てはまらない」が40%と、粘り強く取り組む力に課題がある。 <授業の様子より> ■積極的に授業に取り組み、力を伸ばそうと意欲的に活動している。 <学力調査の結果より> ■学園テスト・定期考査等を総じて、平均点は70点を超える程度である。最近学習したことの正答率が高い一方、過去に学んだものほど正答率が低い傾向がある。</p>	<p>○学習内容が定着するまで粘り強く取り組む力を育てよう工夫する。 ・ワーク課題を用いて過去の学習を振り返る場面を用意する。 ・都立一般入試問題やミニゲームなどを用いて、定期的に社会科の総合的な学習内容の確認を行う。</p>

学年	<p><根拠となる学力調査・授業アンケート等> ■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策 ・具体的な取組</p>
7 学年	<p><学びに向かう力等に関する意識調査より> ■理科を得意、不得意とする生徒数がちょうど半数ずつに対して、授業が分からないとする生徒はいなかった。 ■自宅学習の時間が少なく、できるまで学習を続けるといった回答が少なかった。 <授業アンケートより> ■生徒の学習の見通しの意識が低かった。 ■復習などの振り返りがしっかりとできていなかった。 <授業の様子より> ■授業に真面目に取り組むとともに、観察・実験においては熱心に取り組む、結果から考察を考える努力をしている。しかし、それらをうまく表現できていない。定期考査Ⅰでは基礎的な学力の定着が必要な生徒が多かった。 <学力調査の結果より> ■全体として全国平均より 12.6 ポイント低かった。領域では生命・地球が 13.0 ポイント低く、観点では知識・技能が 14.7 ポイント低かった。</p>	<p>○授業構成と学習の見通し方法を改善 ・学習振り返りシートを用いて、1時間の授業の目的を確認したり、その日の振り返りを書いたりする時間を確保する。 ○学習内容理解のための取組 ・実験プリントでは考察を自由記述の部分と穴埋め形式の部分を作り、考えが整理できるような形式にする。 ・定量的な内容の理解のため、単位変換や計算方法の理解のために演習を行う。 ・章ごとの小テスト等の問題演習で基礎的な内容の理解を確認する。 ・タブレット PC の使用方法習得のために、個別指導や協働作業において適切な支援を行う。</p>
8 学年	<p><学びに向かう力等に関する意識調査より> ■全員が理科をどちらかと言えば不得意と回答する反面、授業が分からないとする生徒がいなかった。 ■自宅学習の時間が少なく、できるまで学習を続けるといった回答が少なかった。 <授業アンケートより> ■生徒の学習の見通しの意識が低かった。 ■自宅学習が定着できていない。 ■単元の内容や1時間の授業の目標に基づいて、学習結果を予想する力に課題がある。 <授業の様子より> ■授業では積極的に発言し、観察・実験では疑問を解決しながら着実に取り組んでいる。 ■既習事項を課題解決や考察に生かせないことがある。 <学力調査の結果より> ■全体として全国平均より 10.5 ポイント低かった。その中で活用が 5.4 ポイント高く、領域では生命が 33.6 ポイント低い。また知識・技能が 19.0 ポイント低かった。</p>	<p>○授業構成と学習の見通し方法を改善 ・学習振り返りシートを用いて、1時間の授業の目的を確認したり、その日の振り返りを書いたりすることを授業ごとに行う。 ・課題発見→仮説→実験・検証→考察→次の課題といったサイクルをしっかりと作り、既習内容が次につながる授業の進め方をする。 ○学習内容理解のための取組 ・前時の復習や既習内容の確認を積極的に行い、理解したことの確実な定着に努める。 ・定量的な内容の理解のため、単位変換や計算方法の理解のために演習を行う。 ・章ごとの小テスト等の問題演習で基礎的な内容の理解を確認する。</p>

9 学 年	<p>〈学びに向かう力等に関する意識調査より〉</p> <p>■自宅学習の時間が少なく、できるまで学習を続けるといった回答が少なかった。</p> <p>〈授業アンケートより〉</p> <p>■単元の内容や1時間の授業の目標に基づいて、学習結果を予想する力に課題がある。</p> <p>■自宅学習の時間が足りていない。</p> <p>〈授業の様子より〉</p> <p>■授業に真面目に取り組んでおり、観察・実験では積極的に学び、理解しようと努力している。</p> <p>〈学力調査の結果より〉</p> <p>■全体として全国平均より 4.3 ポイント高かった。項目別でもほぼ全ての項目で全国平均より高いが、領域の粒子分野においてのみ、全国平均より 4.3 ポイント低かった。</p>	<p>○授業構成と学習の見通し方法を改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に差があるため、演習の時間では基礎的なものを軸に発展的な内容も用意し、個別最適な演習となるようにする。 ・単元や1時間の授業の導入において、生活との関連や最新の情報を一層加える努力をする。 ・単元や1時間の授業の導入において、目標や観察・実験の仮説を考える時間を確保する。 <p>○学習内容理解のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量的な内容の理解のため、単位変換や計算方法の理解のために演習を行う。 ・章ごとの小テスト等の問題演習で基礎的な内容の理解を確認する。
-------------	--	--

教科:音楽

学 年	<p>〈根拠となる学力調査・授業アンケート等〉</p> <p>■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策</p> <p>・具体的な取組</p>
7 学 年	<p>〈授業・定期テストの様子より〉</p> <p>■意欲的に学習に取り組むことができている。聴き取ったことと感じ取ったことを結び付けて自分の言葉で書くことが苦手な生徒がいる。音楽記号や音符の意味や読み方・書き方・漢字表記が定着していない生徒がいる。</p>	<p>○題材のねらい、学習の流れの示し方を改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって取り組めるよう、毎時間に本時の活動の流れを可視化し、いつでも確認できるようにする。 ・題材全体の学習の流れを伝え、見通しをもたせる。 ・題材のねらいの文言を工夫し、生徒の活動の動機付けとなるような示し方ができるようにする。 <p>○学習内容を定着させるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き取ったことと感じ取ったことを発表する場面を増やし、多くの考え方に触れる機会を設定する。 ・楽譜に書いてあることを音楽の要素に分けてチェックする活動を行う。
8 学 年	<p>〈授業・定期テストの様子より〉</p> <p>■意欲的に学習に取り組むことができている。学習カードの振り返りから、見通しをもって授業に取り組むことやねらいに対して振り返りをすることができていない生徒がいる。</p>	<p>○題材のねらい、学習の流れの示し方を改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって取り組めるよう、毎時間に本時の活動の流れを可視化し、いつでも確認できるようにする。 ・題材全体の学習の流れを伝え、見通しをもたせる。 ・題材のねらいの文言を工夫し、生徒の活動の動機付けとなるような示し方ができるようにする。 ・振り返りはねらいに対して行うものであるということを再度確認する。
9 学 年	<p>〈授業・定期テストの様子より〉</p> <p>■意欲的に学習に取り組むことができている。聴き取ったことと感じ取ったことを結び付けて自分の言葉で書くことが苦手な生徒がいる。ねらいに対して振り返りをすることができていない生徒がいる。</p>	<p>○題材のねらい、学習の流れの示し方を改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材全体の学習の流れを伝え、見通しをもたせる。 ・題材のねらいの文言を工夫し、生徒の活動の動機付けとなるような示し方ができるようにする。 ・振り返りはねらいに対して行うものであるということを再度確認する。 <p>○授業の方法を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の授業だけではなく、表現や創作の分野の授業でもお互いの演奏を聴いて、聴き取ったことと感じ取ったことを結び付けて自分の言葉で伝える機会を増やす。

教科：美術

学年	<p><根拠となる学力調査・授業アンケート等> ■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策 ・具体的な取組</p>
7 学年	<p>〈授業の様子より〉 ■意欲的に取り組む姿が見られる。一方で、知識技能面の理解に難しさを感じている様子のある生徒もいる。</p> <p>〈定期考査の結果より〉 ■基本的な知識技能が身に付いていない生徒がいる。</p>	<p>○次学年以降知識を体系的に用いることができるよう、授業内で知識を確実に身に付けられるような授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技法や材料の名称を繰り返し扱う。 ・教室掲示などを活用し、美術文化の中でどの分野に位置付けられる内容を学習しているのか理解できるようにする。
8 学年	<p>〈授業の様子より〉 ■意欲的に取り組む姿が見られる。基本的な知識技能は理解している様子が見られる。一方、生活の中で活用できる水準までは内容が定着していない。</p> <p>〈定期考査の結果より〉 ■基本的な知識技能が身に付いている。</p>	<p>○実生活と学習の結び付きを意識した授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材で扱う技法等が人類の歴史の中でどのように成り立ち、生活と関わってきたのか等の説明を行う。
9 学年	<p>〈授業の様子より〉 ■意欲的に取り組んでいる。また、これまでに学習した内容を活用し制作しようとする姿も見られる。</p> <p>し ■長期間に渡って取り組む題材では、見通しをもつことが難しい様子も見られた。</p> <p>〈定期考査の結果より〉 ■基本的な知識技能が身に付いている。学習した内容を応用する力は生徒によってばらつきがある。</p>	<p>○身に付けた内容を活用する場面をより増やすことができるよう、既習事項から発展した内容に取り組む機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容を日常生活に生かす力を問う問題を定期考査に設定する。 <p>○生徒が学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートを用いて題材全体の予定を提示することを継続していく。

教科：保健体育

学年	<p><根拠となる学力調査・授業アンケート等> ■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策 ・具体的な取組</p>
7 学年	<p>〈単元導入時アンケートより〉 ■各単元における見通しを立て、運動観察で得た情報を活用し、課題発見や課題解決を行うこと。</p> <p>〈授業の様子より〉 ■「見通しと振り返りシート」の活用により、生徒が自らの目標に対する課題の振り返りをより効果的に行う。</p> <p>〈新体力テストの結果より〉 ■全身持久力や筋力の数値に課題が見られる。</p>	<p>○単元の目標や評価基準をより明確に生徒に伝え、単元全体における活動の見通しと目標をより具体的に設定させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートにルーブリック評価表を取り入れる。 ・形成的評価のフィードバックを積極的に行う。 ・毎時間の「目標」「授業の流れ」「技能ポイント」等の掲示を行う。 ・学習プリントに、「単元の目標」「単元の流れ」「1単位時間の流れ」を記載する。 ・主体的、対話的で深い学びのため、協働的な活動をより多く設定する。 ・学習シートの自己評価欄における評価基準、技能ポイントを充実させる。

8 学 年	<p><単元導入時アンケートより> ■各単元における見通しを立て、運動観察で得た情報を活用し、課題発見や課題解決を行うこと。 <授業の様子より> ■「見通しと振り返りシート」の活用により、生徒が自らの目標に対する課題の振り返りをより効果的に行う。 <新体力テストの結果より> ■全身持久力や瞬発力の数値に課題が見られる。</p>	<p>○単元の目標や評価基準をより明確に生徒に伝え、単元全体における活動の見通しと目標をより具体的に設定させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートにルーブリック評価表を取り入れる。 ・形成的評価のフィードバックを積極的に行う。 ・毎時間の「目標」「授業の流れ」「技能ポイント」等の掲示を行う。 ・学習プリントに、「単元の目標」「単元の流れ」「1単位時間の流れ」を記載する。 ・主体的、対話的で深い学びのため、協働的な活動をより多く設定する。 ・学習シートの自己評価欄における評価基準、技能ポイントを充実させる。
9 学 年	<p><単元導入時アンケートより> ■各単元における見通しを立て、運動観察で得た情報を活用し、課題発見や課題解決を行うこと。 <授業の様子より> ■「見通しと振り返りシート」の活用により、生徒が自らの目標に対する課題の振り返りをより効果的に行う。 <新体力テストの結果より> ■全身持久力や筋力の数値に課題が見られる。</p>	<p>○単元の目標や評価基準をより明確に生徒に伝え、単元全体における活動の見通しと目標をより具体的に設定させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートにルーブリック評価表を取り入れる。 ・形成的評価のフィードバックを積極的に行う。 ・毎時間の「目標」「授業の流れ」「技能ポイント」等の掲示を行う。 ・学習プリントに、「単元の目標」「単元の流れ」「1単位時間の流れ」を記載する。 ・主体的、対話的で深い学びのため、協働的な活動をより多く設定する。 ・学習シートの自己評価欄における評価基準、技能ポイントを充実させる。 ・これまでの学習を生かしてより発展的な学習をするための手だてを計画、実行する時間を多く確保する。

教科：技術・家庭（技術分野）

学 年	■ 学力調査の結果・授業アンケート等からみられる課題	○授業改善の方策 ・具体的な取組
7 学 年	<p>■<授業の様子より> 学習内容を理解して作業等に生かしているが知識・技能の積み上げが不十分であり定期テストに反映されないところも見られる。</p>	<p>○学習内容の理解を定着させる工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業項目ごとの「学習シート」を作り学習内容の理解と見通しをもたせる。また、同一のシートで振り返りも行う。 ・作業のポイントや他者の意見を聞くこと。タブレット端末で学習の記録をレポート形式でまとめさせることを通して自己、他者の学習の取り組みを比較させて深い学びにつなげる。 ・作業等での必要な知識や技能を反復させ、思考・判断・表現につなげる。
8 学 年	<p>■<授業の様子より> 学習内容を理解して作業等に生かしているが知識・技能の積み上げが不十分であり定期テストに反映されないところも見られる。</p>	<p>○学習内容の理解を定着させる工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業項目ごとの「学習シート」を作り学習内容の理解と見通しをもたせる。また、同一のシートで振り返りも行う。 ・作業のポイントや他者の意見を聞くこと。タブレット端末で学習の記録をレポート形式でまとめさせることを通して自己、他者の学習の取り組みを比較させて深い学びにつなげる。 ・作業等での必要な知識や技能を反復させ、思考・判断・表現につなげる。

9 学 年	<p>■<授業の様子より> 学習内容を理解して作業等に生かしているが知識・技能の積み上げが不十分であり定期テストに反映されないところも見られる。</p>	<p>○学習内容の理解を定着させる工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業項目ごとの「学習シート」を作り学習内容の理解と見直しをもたせる。また、同一のシートで振り返りも行う。 ・作業のポイントや他者の意見を聞くこと。タブレット端末で学習の記録をレポート形式でまとめさせることを通して自己、他者の学習の取り組みを比較させて深い学びにつなげる。 ・作業等での必要な知識や技能を反復させ、思考・判断・表現につなげる。
-------------	--	---

教科：技術・家庭（家庭分野）

学 年	<p><根拠となる学力調査・授業アンケート等> ■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策 ・具体的な取組</p>
7 学 年	<p><授業の様子より> ■授業内で学習内容を理解することはできているが、定期考査の結果を見ると、知識が定着していない生徒がいる。</p>	<p>○学習内容と生徒の生活を関連させて、体験的な活動から知識を獲得できる授業づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の導入では、自分の生活を振り返り、問題を見出し、課題を設定する活動を取り入れることで、学習に主体的に取り組ませるとともに、生活をよりよくしようとする態度を育てる。 ・題材の1/2は体験的な活動や生徒の生活と結び付ける学習活動を行い、活用できる知識（概念的な理解）を身に付けられるようにする。 <p>○分かるまで繰り返し学習できるように、家庭学習の手だてを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をドリル形式にまとめ、オンライン上で生徒が分かるまで取り組めるようにする。
8 学 年	<p><授業の様子より> ■学習内容はよく理解できている。一方で、店頭で商品を選んだり、自分で1食分の食事を選んだりする機会がほとんどない生徒がいる。学習内容を理解することはできているが、生活に結び付いていない場面がしばしば見受けられる。</p>	<p>○生徒の生活まで見通した授業づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の導入では、生徒の生活から問題を発見し、課題を設定することで、生活をよりよくするという意識をもって学習に取り組めるようにする。 ・家庭で実践する課題を積極的に取り入れる。具体的には、住まいの安全対策の方法を学習した後に、対策を見直す活動を取り入れたたり、地域でよく食べられる食材を取り入れた調理実習を行ったりする。 ・題材に入る前に題材に関するアンケートを実施し、生徒の生活経験などを把握した上で授業を行うようにする。
9 学 年	<p><授業の様子より> ■家族・家庭生活の領域では、幼児とのかかわりに苦手意識をもっている生徒が多い。</p>	<p>○保育実習を知識や技能を活用する題材の大事な視点として設定し、実践的な学習活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児との上手な関わりについて自分の生活から問題を見出し、課題を設定する。生徒が設定した課題に合わせて授業展開を工夫する。 ・「保育実習で幼児が○○の場面の時にどのように対応するか」など、学習内容を保育実習と結び付けて、より実践的な学習活動になるよう工夫する。